

2015 年度 日本泌尿器科学会 (JUA)/米国泌尿器科学会 (AUA) 交流プログラム

2015 JUA/AUA Academic Exchange Program 参加報告

中 川 徹 (東京大)

私は2015年度のJUA/AUA交換プログラムスカラーに選出して頂き、海外研修の機会を得ました。以下、そのご報告を申し上げます。

研修先として希望したのはテキサス州ヒューストンのMD Anderson Cancer Centerです。私は癌の臨床とくに尿路上皮癌に重点を置いています。MD Anderson Cancer Centerは膀胱癌の権威として著名なDr. DinneyやDr. Kamat, 上部尿路癌ではDr. Matinらにより、豊富な症例に基づく臨床研究を多数報告しています。また、米国NIHが支援する最大の研究グラントであるSPOREを膀胱癌の領域で唯一獲得している施設であり、基礎・トランスレーショナル研究でも多数の業績を上げています。そのような理由で上記施設を希望し、幸いにも受け入れていただきました。

金沢での日本泌尿器科学会総会から4日後、4月25日に日本を発ち、現地で私と同じく研修をおこなう舟橋先生(名古屋大学)と合流しました。研修2日目からは手術室に入り浸りました。手術件数は圧倒的です。1年間に膀胱全摘250~300件、腎摘除・腎部分切除500件をこなし、前立腺全摘(RARP)に至っては毎日5件以上組まれていました。スタッフはfaculty約15人とフェロー10人ほどです。この手術件数を可能にするのは、手術チームの共通理解の深さ・入れ替え時間の最小限化などがあってこそですが、それでも根本は個々人のhard work、と感じました。

我々は全医師の手術を見学しましたが、なかでもDr. Matinにはお世話になりました。Dr. Matinは腎細胞癌と上部尿路癌がご専門の、大変ご高名な先生です。見学初日にDaVinciによる腎尿管全摘術(高度癒着のためopen conversion)、引き続きRARP2件をこなしていました。



Dr. Matin と筆者。Dr. Matin のオフィスにて。

そのほか、URSなどの外来手術も自ら行い、毎日手術と外来で大変ご多忙なご様子でしたが、術中にも非常に丁寧に解説して下さり、こちらの質問にも真摯に対応して頂きました。Dr. MatinやDr. Shahには、仕事の後に食事やBarにも連れて行って頂きました。世界的権威である多忙なDr. Matinにそのように親しく接して頂き、感謝の言葉ありません。

MD Andersonでの約3週間の研修終了後はNew Orleansに移動し、AUA総会に向かいました。ここでも大いに学んだと同時に、多くの日本人と会って急速に現実に引き戻され、帰国後の山積した仕事を予感しました。

最後になりましたが、今回このようなプログラムを用意していただいたJUA・AUA両学会、ならびに事務手配の労をとっていただいた両学会のご担当の方々、後援企業である米国AMS社には、深く御礼申し上げます。